

第 30 回 猪名川自然環境委員会
(令和 3 年 1 月 25 日)
資料-3

第 30 回猪名川自然環境委員会での
指摘を踏まえた修正版

「令和 3 年度両生類・爬虫類・哺乳類調査」
における
河川水辺の国勢調査を行う上での
猪名川における補足事項(案)

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所

1. 作成・運用に向けたロードマップ（案）

これまで、河道掘削モニタリング及び簡易魚道モニタリングを実施してきたが、今後は河川水辺の国勢調査を活用して猪名川・藻川全体の環境変化の把握及び評価を実施する新たな取り組みを行っていくために、「河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)」(以下、「補足事項(案)」)を作成し、令和2年度から運用している段階にある。(表-1)。

2. 委員からの主な指摘と対応

令和元年度の猪名川自然環境委員会では「補足事項（案）」を示し、今後の運用やフォローアップに対する指導・助言を頂いた（表-2）。

3. 補足事項（案）の作成

頂いた指導・助言を基に、「補足事項（案）」の更新版を作成し、別紙にとりまとめた。

令和2年度猪名川自然環境委員会では、令和3年度の河川水辺の国勢調査（両生類・爬虫類・哺乳類）について内容を確認する。

表-1 「河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)」の作成・運用に向けたロードマップ
 (令和2年度 第29回猪名川自然環境委員会での提示資料)

検討項目	平成30(2018)年度				令和元(2019)年度				令和2(2020)年度				令和3(2021)年度				令和4(2022)年度				令和5(2023)年度				令和6(2024)年度				令和7(2025)年度			
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月
河川水辺の国勢調査を行う上での 猪名川における補足事項(案)																																
本資料の考え方・骨子の整理	■																															
本資料の作成・更新			■	■	■	■	■	■																								
猪名川自然環境委員会における指導・助言		■		■			■	■																								
河道掘削箇所のモニタリング・簡易魚道のモニタリング																																
河道掘削モニタリング計画																																
河道掘削箇所のモニタリングの実施	■				■				■				■				■				■											
									令和2年以降は本資料を用いたモニタリングに移行																							
簡易魚道モニタリング計画																																
簡易魚道のモニタリングの実施	■				■				■				■				■				■											
									令和2年以降は本資料を用いたモニタリングに移行																							
簡易魚道のモニタリング結果のまとめ																																
本資料の運用によるモニタリング																																
(河川水辺の国勢調査)					(植物)				(河川環境基図作成)				(両生類・爬虫類・哺乳類)				(魚類)				(底生動物)				(陸上昆虫類等)				(河川環境基図作成)			
工事箇所の環境配慮																																
工事予定箇所の現地確認		■				■				■				■				■				■				■				■		
工事予定箇所の環境面からの評価		■				■				■				■				■				■				■				■		

表-2 委員からの主な指摘と対応

主な論点	質問・意見の要約			対応	
	内容	第 29 回 委員会 (R2.2)	第 23 回 部会 (R2.12)	内容	掲載 ページ
猪名川の河川環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 猪名川は、瀬・淵の環境や感潮域・汽水域の環境が重要であり、記載して頂きたい。また、人との関わり合いが深いことが特徴的である。 横断連続性の分断の課題は、他の河川と比較して川幅に対する高水敷の割合が大きいことであり明記する必要がある。 	○	—	<ul style="list-style-type: none"> 「1.1.1 猪名川・藻川の代表区間毎の重要な環境」の中で、猪名川・藻川で感潮区間の汽水環境から淡水域へ連続していることを重要な環境として整理した。また、人との関わり合いや横断連続性に関する特徴についてもとりまとめた。 	別紙 P.1
河川水辺の国勢調査のアドバイザーと猪名川自然環境委員会委員との関係	<ul style="list-style-type: none"> 河川水辺の国勢調査のアドバイザーと猪名川自然環境委員会の委員は一致している方が良い。 	○	—	<ul style="list-style-type: none"> — (今後の検討事項とする) 	—
補足事項(案)の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 現状の補足事項(案)は暫定版とし、対象となる分類群の河川水辺の国勢調査を実施する前年度に、該当する補足事項について、事前に検討して具体化した上で、当該年度の河川水辺の国勢調査に活用していくことが良い。 	○	—	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる分類群の河川水辺の国勢調査(令和3年度は両生類・爬虫類・哺乳類)について補足事項(案)を確認し、必要に応じて具体化する。 	別紙 P.45
流程毎の生物の分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 別の資料において、流程毎に汽水性、回遊性、止水・緩流における生物の分布状況を示したリストがあるが、この情報を河川水辺の国勢調査でも継承し、連続性が担保されているかどうかの評価に繋げて頂きたい。 	○	—	<ul style="list-style-type: none"> — (河川水辺の国勢調査結果を活用し、連続性の担保についてフォローアップを行っていく) 	—
環境目標と指標	<ul style="list-style-type: none"> アカネズミは、他河川では分布域が広い優占種となるが、猪名川では確認できていないため、猪名川の河川環境を考える上でこの観点は気にするようにして頂きたい。また、ワンド・たまりの保全における指標として、イシガイ科と止水性魚類しか挙げられていないが、両生類や爬虫類も重要であり、指標として考慮して頂きたい。注目種として記載するというだけでもよい。 これまで、レッドデータブックに掲載されている植物については配慮して調査を行ってきたが、レッドデータブックに掲載されていなくても、猪名川で注目すべき種として幅広くリストアップしたらよい。 	—	○	<ul style="list-style-type: none"> 翌年度に実施する両生類・爬虫類・哺乳類調査について、カエル・カメ類やアカネズミの確認状況について追加した。 カエル類・カメ類がワンド・たまりの保全と関係することを記載した。 	別紙 P.47、 P.17
	<ul style="list-style-type: none"> 河原環境を再生したら、必ず水中の瀬や淵、トロ、底質の状況や水深・流速は変化するものであるが、これまでモニタリングの中ではその状態について把握していない。魚類については、これまで主に河川縦断方向の連続性を見てきたが、瀬・淵等の水中部の物理環境についても指標として取り扱ってみてはどうか。 	—	○	<ul style="list-style-type: none"> 魚類調査は令和4年度の調査計画となっており、令和3年度の猪名川自然環境委員会の中で検討する予定とする。 	—
河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)の更新	<ul style="list-style-type: none"> 河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)(以下、補足事項(案))は、毎年、翌年度に実施する調査の分類群毎に確認を行っていくので、都度、河原環境の副次的な効果等も含めて議論をして補足事項(案)を更新していけばよくなっていくと考えられる。 	—	○	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘に基づき自然環境委員会の中で、翌年度に実施する分類群毎に確認を行っていく。 	—

